## キリストの信頼

ルカ２２：３１～３４、５４～６２

私たちはしばしば自分の弱さ、情けなさ、ふがいなさに、涙を流し、自分が信じられなくなり、自己嫌悪に陥ってしまいます。生きているのが嫌になり、他人と会うのも億劫になります。後悔と落胆にさいなまれ、閉じこもってしまいたくなります。クリスチャンになったとはいえ、そんなときもあるのです。　でも、そのような私たちを慈しみ、慰め、なおも信頼し続けてくださるのが、私たちの主なのです。

**Ⅰ．　人間の弱さをご存知の主**　　ペテロはたぶん、壮年を迎えてからしばらくたつ男だったと思われます。何につけても、一通りはわきまえていたはずです。ところが、彼はまだ、本当の意味で自分の弱さを知りませんでした。そのために、人間の弱さそのものにも深い洞察を持っていませんでした。弱い人を思いやったり、心をくばったりすることが不得手だっただけでなく、自分の失敗や間違いを認めて、へりくだることも苦手でした。

ところがイエス様は、そのようなペテロの弱さと欠点を見越しておられたのです。人間と言うものの弱さを、良くご存知だったからです。弱さを自覚していない人間の欠点を、深く理解しておられたからです。

私たちの中にも、ペテロのように自分の弱さを知らない人が大勢います。少しは知っていると思われても、実際にはあまり知らない人もたくさんいます。都合のいい時だけ、知っているように振る舞う人間もいます。本当の意味で弱さを知っている人こそ、大切な人、必要な人、他人を助けることが出来る人です。

ペテロが、より良く神様に用いられる人間になるためには。本当の意味で弱さを知る人間になる必要がありました。そのために、あえてこのような試みが与えられたのです。私たちの遭遇する試みの中にも、私たちが神様に用いられる人となるための、神様の試練として与えられるものがあると知りましょう。その試練に積極的に向き合うことが大切です。

**Ⅱ．　人間の弱さに失望なさらない主**　　弱い人を見たとき、また弱さを知らない人を見たとき、私たちはその人に失望してしまいます。怒ったり、軽蔑したり、無視したりするのも普通です。そのような人とは、もう付き合いたくないと言いだしたりします。それもまた弱さであり、弱さを知らないことでもあることにさえ気づきません。

私たちの主は、人の弱さに失望することがないお方です。ご自分は強いお方なのに、弱い人の弱さをご自分の身に負うために、あえて弱い人となり、弱さを実体験して下さったお方です。イエス様は、罪のために弱ってしまった人間性を、深い同情をもって理解しておられます。その上、そういう人間が作り出す社会の混乱も洞察しておられます。さらに、そういう社会で生きる弱い人間の苦痛を、ご自分で味わってくださったのです。

ペテロの弱さに対して、イエス様はまったくも驚いてもおられません。それをはじめからご存知で、それを前提として、ペテロを選び、お召しになったのです。私たちも、いまさら自分の弱さを恥じる必要はありません。私たちが自分を知らなかったときに、イエス様は私たちを深く知ったうえ、私たちを召してくださったので

す。



### Ⅲ．　人間の弱さを超えて信頼してくださる主

私たちが人を雇うとき、信頼のできる人間を選びます。ところがイエス様は、信頼できない人間であることを前提に、弟子たちを呼び寄せてくださいました。
イエス様は完成した人間ではなく、これから成長する人間を探して
おられるのです。日本語では意味が弱くなっていますが、イエス様がペテロをお召しになったとき、「私はあなたを作り上げよう」とおっしゃったのです。イエス様は、人間を作り上げることが出来る方であるため、未完成の者でもいいのです。

　イエス様はまだまだ弱く信頼に足りないペテロを信頼し、弟子とし、訓練し、用い続けてくださったのです。しかも、弱さを心底体験したペテロが、将来どのような人間に成長するかも、始めから見通しておられます。それで、おっしゃったのです。「あなたが立ち直ったときには、他の者たちを励ましてやりなさい。」

　私たちの今がどのようであっても、弱さをまったく知らなくても、生半可に知るだけであっても、弱さに泣き崩れているところであっても、イエス様は私たちを理解し、それぞれを神様に役立つものに育てようとしておられます。弱い自分たちに信頼を置くのではなく、このイエス様を信頼して歩み続けましょう。そして、神様のご栄光のために、人々の慰めと励ましのために用いられる者と、作り上げていただきましょう。